

グランモール公園再整備実施設計の概要

01	現状の課題と再整備の方向性	001
02	再整備のビジョン	002
03	再整備のコンセプト	003
04	空間設定の展開	004
05	環境未来都市計画への対応	006
06	4つの広場のデザインの考え方	007
	各街区のデザインの展開	008
07	再整備イメージスケッチ	011
08	再整備スケジュール	012

01-01 現状の課題と再整備の方向性

Grand Mall Park

グランモール公園の現状と課題

グランモール公園はみなとみらい21中央地区の中心に位置する主要な歩行者空間である。街の発展とともに、美術の広場、ヨーヨー広場、メディアタワー前、旧ジャックモール前が段階的に整備されてきた。水・緑・光による空間づくり、イベントや憩いの場としての公園などを基本的な考え方として整備された公園である。

しかし、現在のグランモール公園は、歩行者空間としての通行機能に偏っている。イベント等が乏しく、公園本来の憩いの空間が少ないことから十分な活用がなされていない。また、設備等の老朽化にともない公園施設の更新が必要になっている。

再整備の方向性

みなとみらい21の開発の進展にともない、みなとみらい21の象徴的な公園であるグランモール公園においても、更なる賑わいの創出が求められている。また、横浜を代表するスマートシティとして、環境への取り組みの推進も求められている。

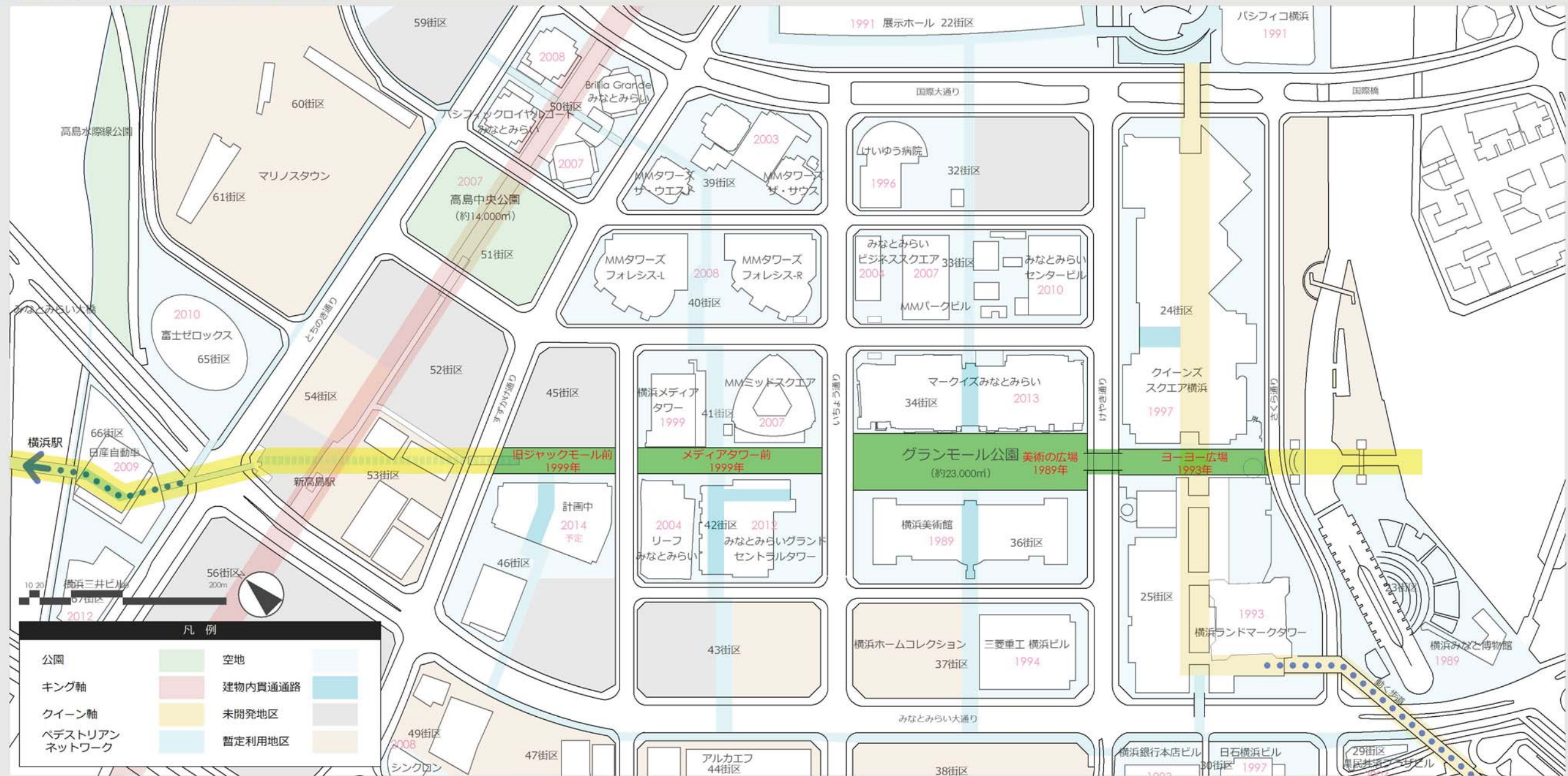
グランモール公園の再整備では、賑わいや憩いの創出などの公園機能の充実のみならず、まちの変化にあわせた魅力向上が必要である。これに向け、実感できる緑の創出などの環境への取り組みを通じた、街と一体的に活用できる快適な公園づくりを図る。

諸元

所在地：横浜市西区みなとみらい三丁目
敷地面積：23,102㎡
公園種別：近隣公園
公開年：1989年
1993年
1999年

Minatomirai 21

みなとみらい21中央地区の状況



・グランモール公園は、みなとみらい21中央地区の中心に位置し、地区の骨格となる歩行者空間である。
・みなとみらい21中央地区は業務・商業・文化等の様々な都市機能をもつ地区となっている。

・今後はキング軸側（横浜駅側）を中心にみなとみらい21中央地区の開発が進む。
・環境未来都市の実現、市街地における緑の創造などを目標にまちづくりが進められている。

グランモール公園再整備プロジェクト プロジェクトビジョン

ひとと自然にやさしい、みらいの庭

グランモール公園からはじまる、みらいへ広がるみどりの波

ひとにやさしい庭・・・憩い、賑わい、集い、つながり、活動・協働の場となる庭。

自然にやさしい庭・・・実感できる緑花の庭。生きもののある庭。自然エネルギー、雨水などの有効活用、資源の再利用などを実現する庭。

みらいの庭・・・環境未来都市、スマートなまちづくりを実現・発信する、みなとみらいのみんなの庭。

みどりの波・・・グランモール公園の再整備をスタートとして、みなとみらい21地区、横浜、そして、日本、世界へと環境の取り組みを発信し、広げ、つなげていくという想いを伝えるメッセージのキーワード。

グランモール公園の緑アップにより形成される、隣接街区へ続く立体的な緑の軸。その天蓋が風に吹かれて波のように見える様子、ウォーターフロントに立地するみなとみらい21地区にあり、「港・海・船」をデザインモチーフとするグランモール公園らしい表現として、「みどりの波」とした。

03-01 再整備のコンセプト

Rambling Park

～ Ramble in the linear park with a lot of fun. ～

歩行者軸を超え、憩いと賑わいの溢れる公園へ

■ 再整備コンセプト

環境未来都市YOKOHAMAをリードするみなとみらい21地区の「スマートなまちづくり」の取り組みの一つとして、グランモール公園の再整備を位置づける

グランモール公園再整備 = 都市の快適性向上プロジェクト

グランモール公園の位置づけと果たす役割

グランモール公園再整備 = 都市の快適性向上プロジェクトの戦略

- ① 快適生活空間の創造 = 歩いて楽しい『Rambling Park』（ランブリング・パーク）の創造
…モール、プラザ、テラスによる、憩いと賑わいの充実
- ② 快適環境空間の形成 = いつでも来たくなる『GREEN × SMART PARK』の形成
…体感できる心地よさ、緑と生きものへの優しさ、「みらい」へのつながりによる快適性の充実

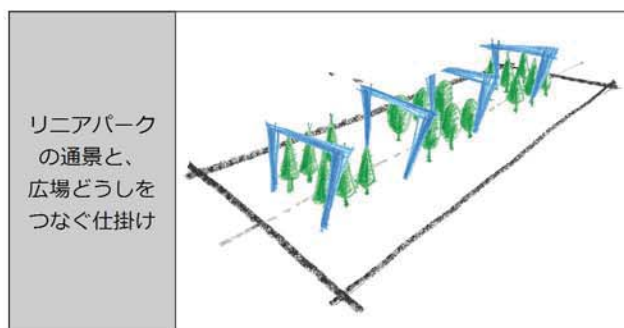
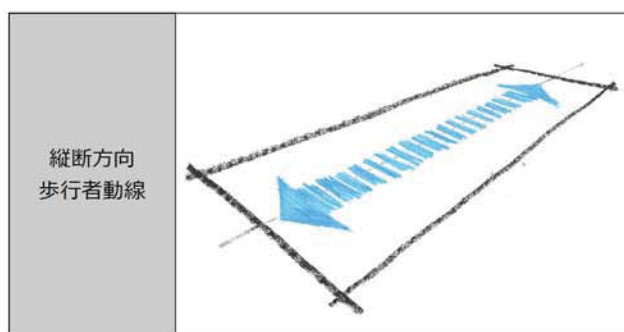
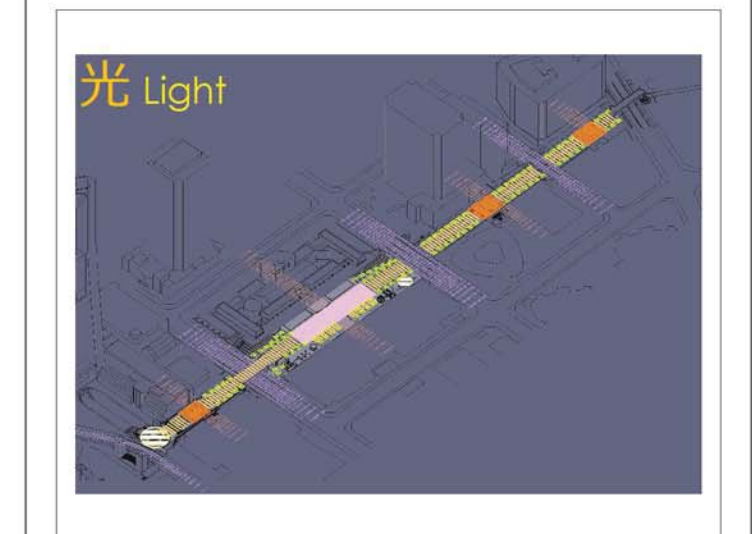
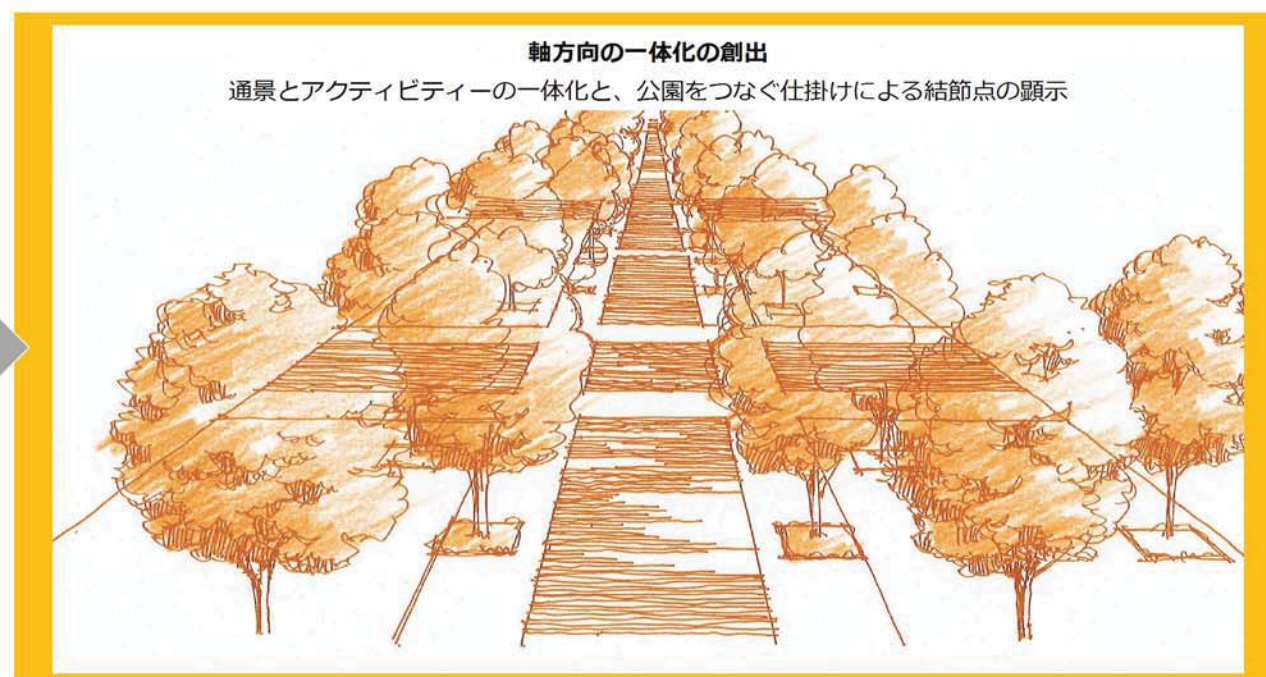
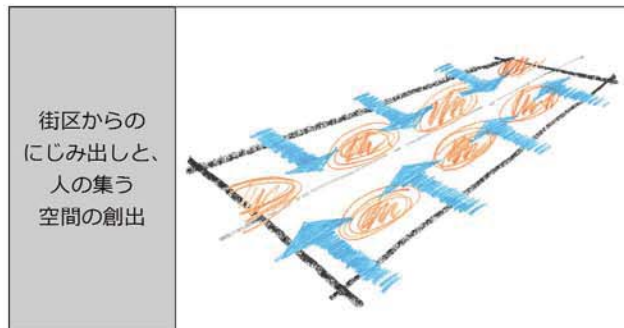
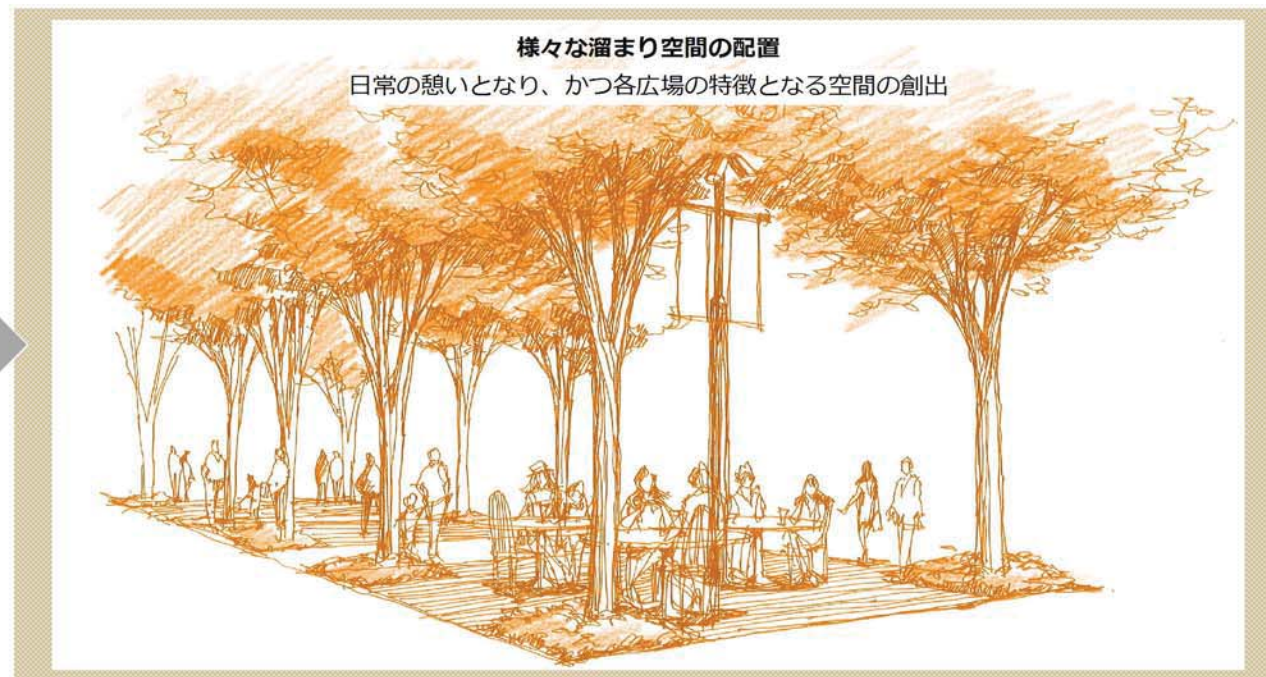
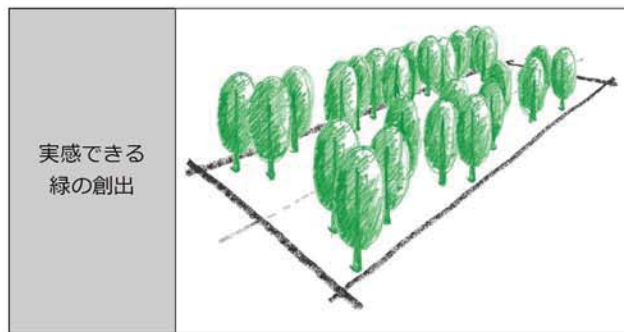
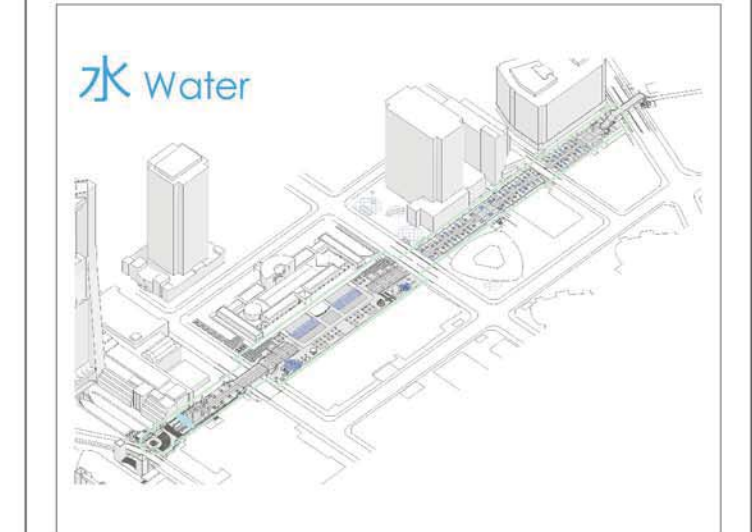
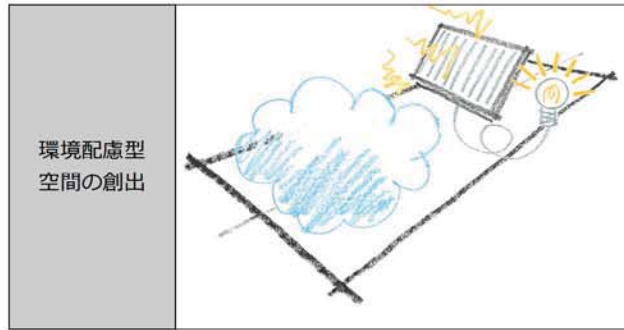
04-01 空間設定の展開 1/2

基本計画ダイアグラムを具現化するにあたり、公園の骨格となる3つの空間を設定する。

基本計画ダイアグラム

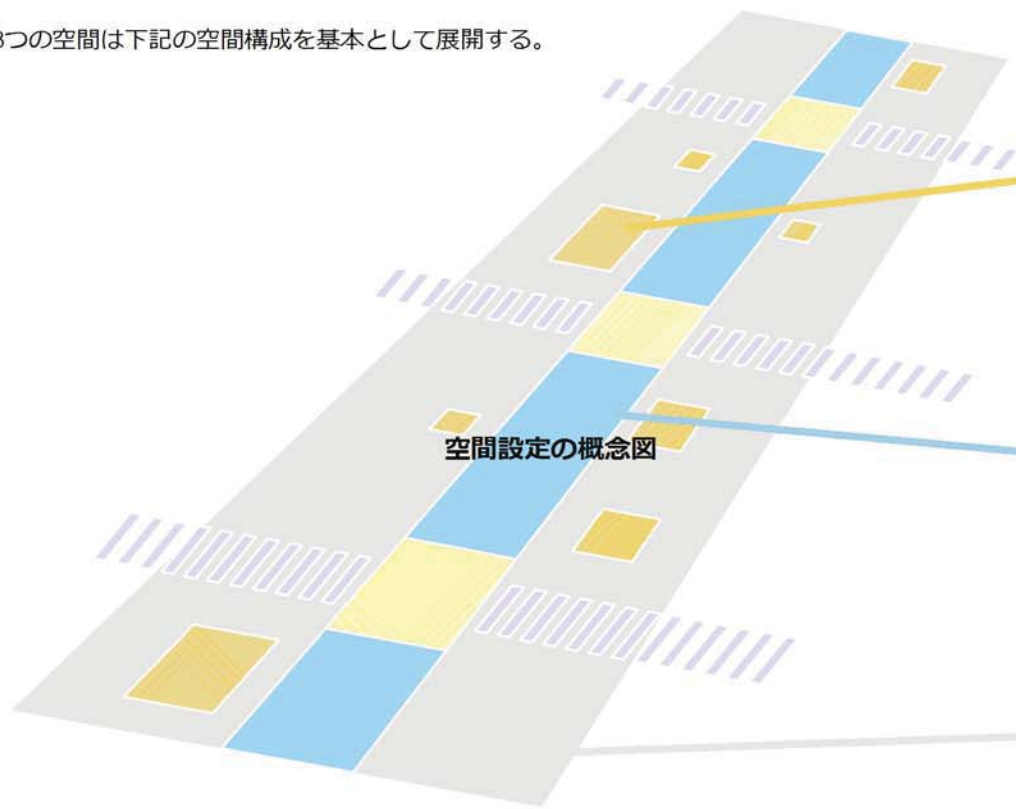
空間設定の展開

グランモール公園の3要素



04-02 空間設定の展開 2/2

3つの空間は下記の空間構成を基本として展開する。



様々な溜まり空間の配置

日常のアクティビティを受け入れる、大小さまざまな溜まり空間「テラス」を配置し、公園の憩いと賑わいを創出。



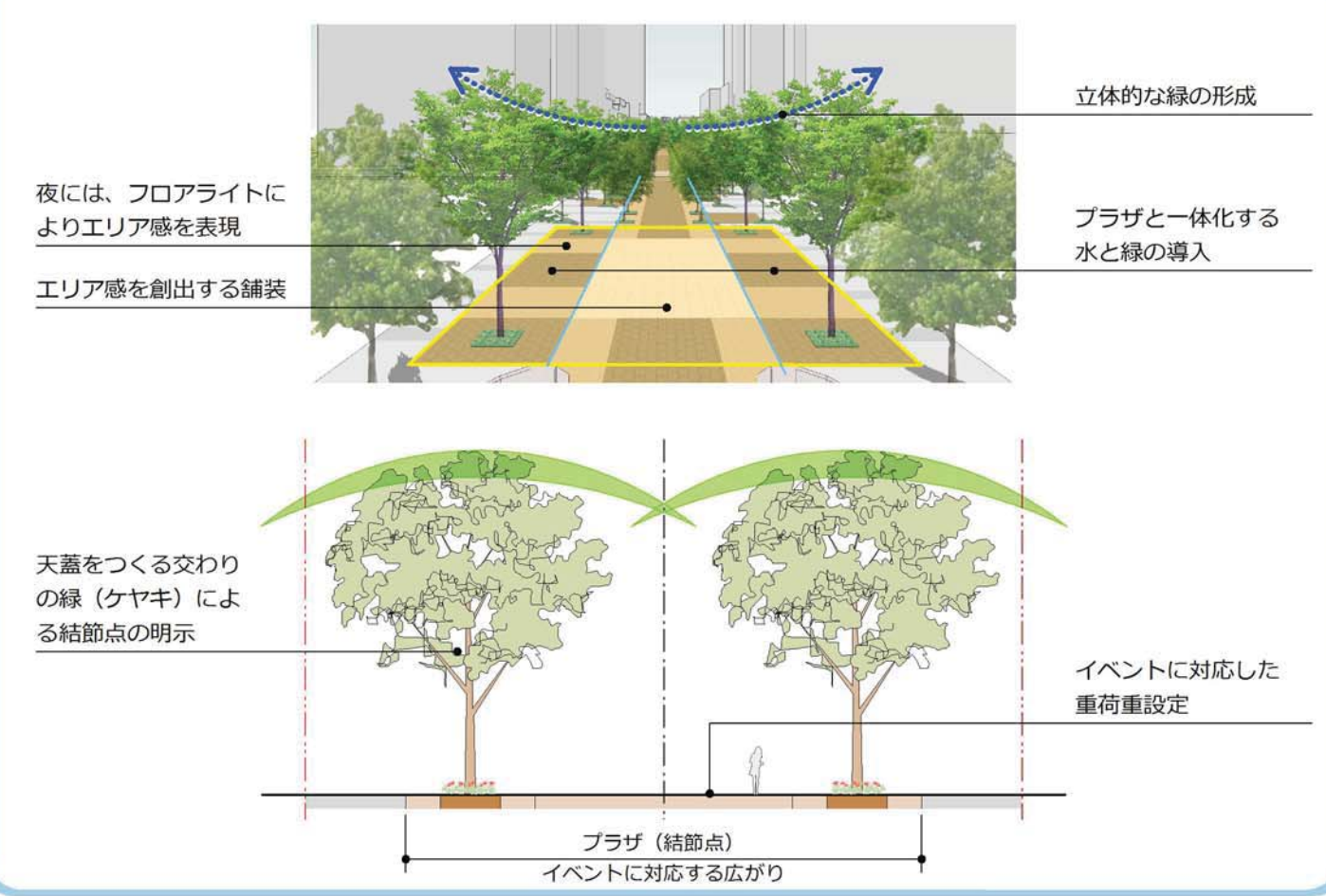
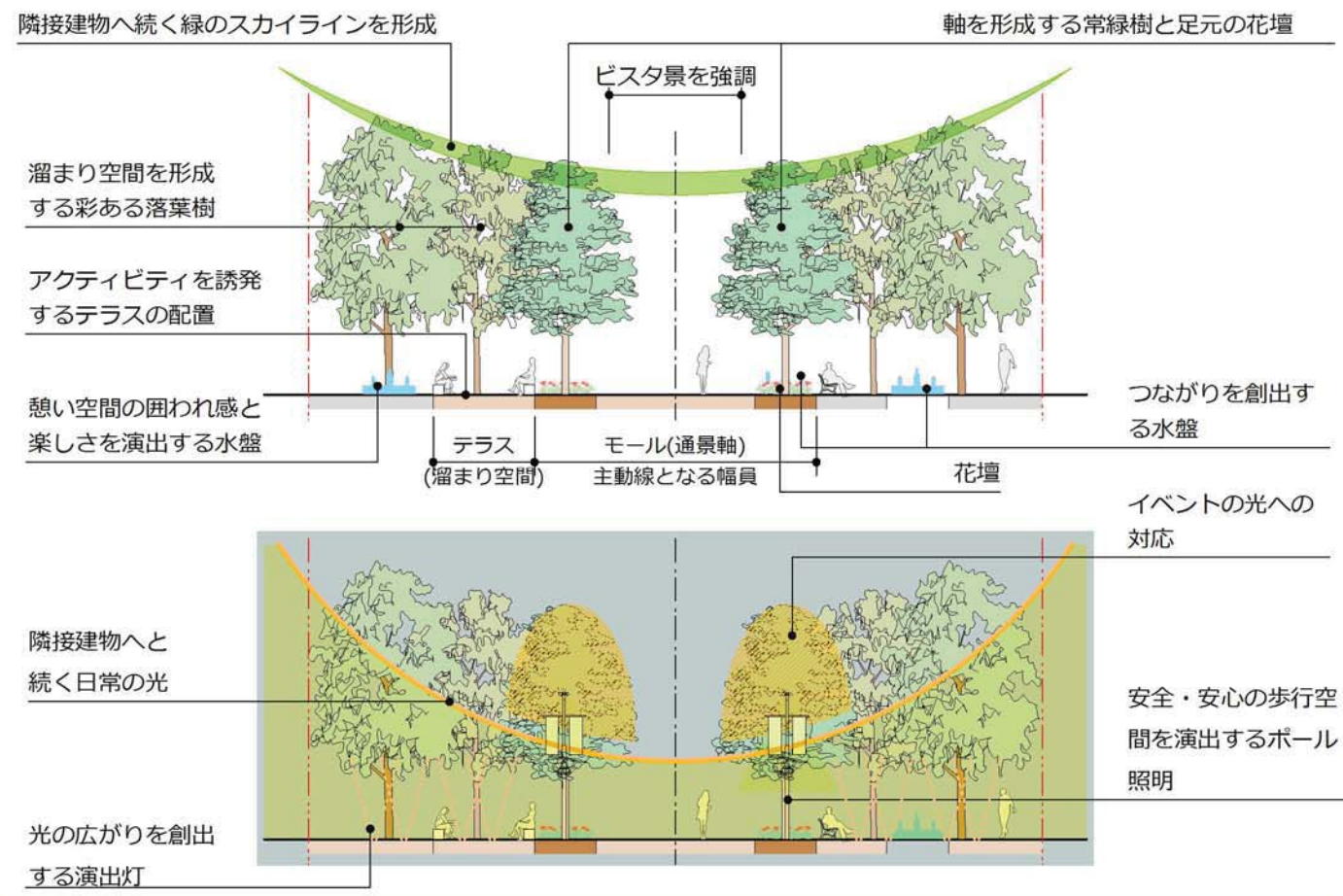
軸方向の一体化の創出

イベントリユースに対応した各広場の結節点「プラザ」を通景軸「モール」でつなぎ、一体的な賑わいを創出。



環境未来都市への対応

様々な水景の展開、憩いとなる緑量の増加、安全性とイベント利用を想定した光の演出などにより、快適な空間を創出。



05-01 環境未来都市計画への対応

a 整備の基本コンセプト

環境未来都市YOKOHAMAをリードするみなとみらい21地区の「スマートなまちづくり」の取り組みの一つとして、グランモール公園の再整備を位置づける

グランモール公園再整備 = 都市の快適性向上プロジェクト

グランモール公園の位置づけと果たす役割

グランモール公園再整備 = 都市の快適性向上プロジェクトの戦略

- ① **快適生活空間の創造** = 歩いて楽しい『Rambling Park』(ランブリング・パーク)の創造
 …モール、プラザ、テラスによる、憩いと賑わいの充実
- ② **快適環境空間の形成** = いつでも来たくなる『GREEN × SMART PARK』の形成
 …体感できる心地よさ、緑と生きものへの優しさ、「みらい」へのつながりによる快適性の充実

b 具現化のダイアグラム



水

雨水利用や水景とも連携した公園内の水の総合的な活用を図り、樹木や保水性舗装の蒸散効果による涼しさを実感できる空間を形成する。

体感できる心地よさ
 -都市の生活の心地よさアップ-



緑

緑量の増加や、効果的な配置により、実感できる緑を創出する。樹木の緑陰に加えて、都市の彩となる草花の演出など、様々な緑を導入し、都市の緑アップを推進する。

緑と生きものへの優しさ
 -都市の緑アップ-



自然エネルギー

太陽光などの自然エネルギーの有効活用を、公園の施設とも連携したわかりやすい形で展開することを検討する。

「みらい」へのつながり
 -都市のサステナビリティアップ-

風

MM21地区の大きな風の流れと、樹木や水景から生まれる微気候により発生する小さな風を活用し、実感できる環境の違いを生み出す。



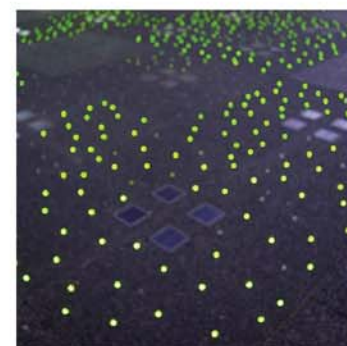
生きもの

地区内の公園緑地や公開空地、屋上緑化などの緑と連携し、生きものネットワークの形成に寄与する。



リユース

グランモール公園の歴史を作ってきた現在の舗装や施設、樹木。再整備では、その利活用に積極的に取り組み、歴史の継承と資源の有効活用を行う。



見える化

環境への取り組みを見える化し、都市環境への興味のきっかけをつくるとともに、公園の果たす役割への気づきとなる。



デザインへの展開

グランモール公園にふさわしいデザインコードや各広場のテーマを設定して、それぞれの施設について統一感があり、質の高いデザインへの展開を行う。



ソフトの展開

賑わいを生むイベントの展開や、環境モニタリング情報の発信、MM21地区の官民一体の取り組みなどにより、公園の活性化を行う新たな形のマネジメント方法を検討する。

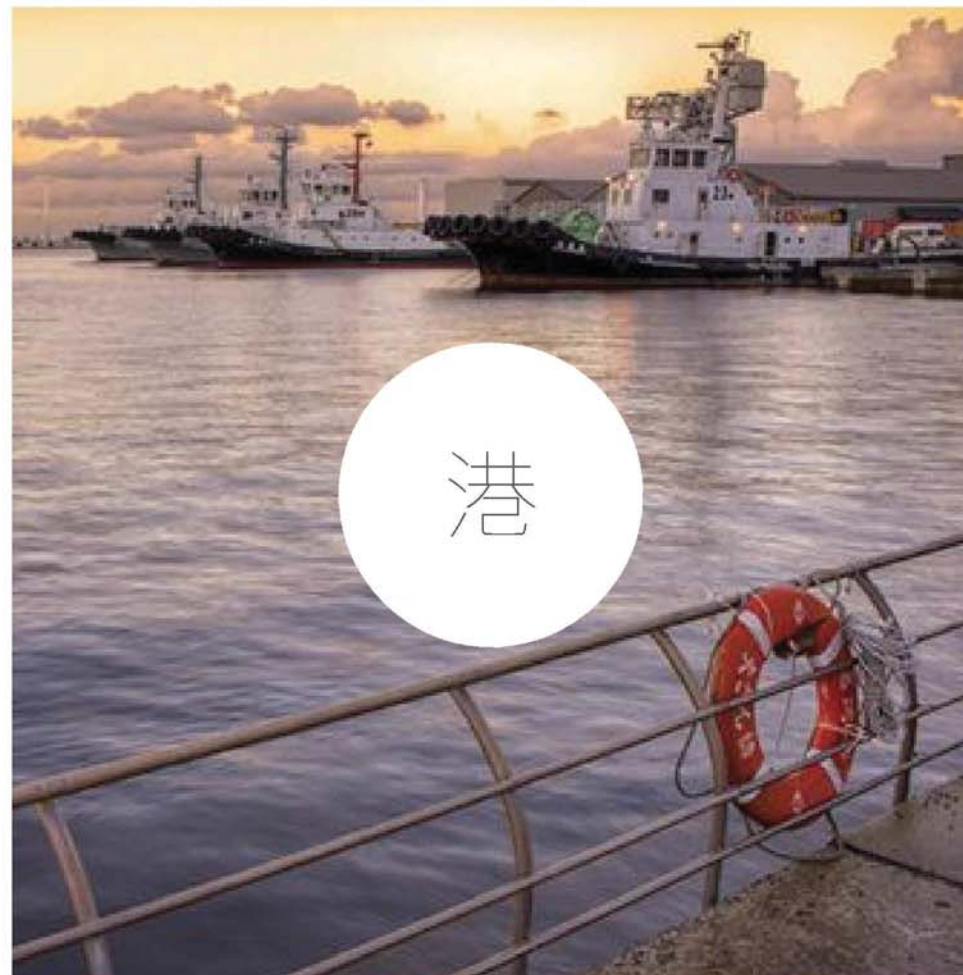
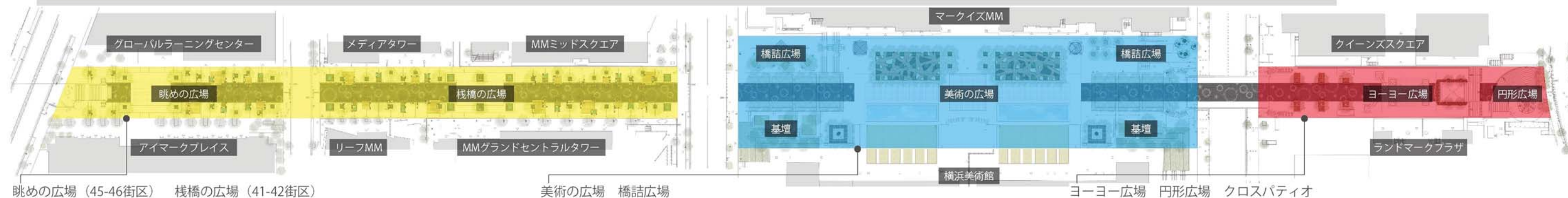


06-01 4つの広場のデザインの考え方

a デザインの考え方

■デザインの考え方

- ・グランモール公園のこれまでのデザインモチーフを継承、発展させ、ウォーターフロントに立地する公園としての特徴を、各エリアごとのテーマ（港・海・船）として設定し、質の高いデザインを展開する。
- ・デザインモチーフはファニチャーを中心に展開し、舗装など軸方向につながるものは、公園の一体化を創出するため統一の仕様とし、強調しすぎないものとする。
- ・グランモール公園の整形・整列の配置は、隣接街区のデザインとのつながりを図りながら、柔らかさや自然的なイメージはあたたかみのある素材やディテールで表現する。



憩い、癒し、集う、人々の港。

眺めの広場、栈橋の広場は園内で最も密度のある場所となります。木立の中には人々が憩い、集い、語らうことのできるファニチャー、水景、植栽がちりばめられています。まさしく人々にとっての港として、歩き疲れた人を癒したり、小さな集いの場をつくります。

key word

港・栈橋・デッキ・係船柱・白・ライトグレー・木立・草花・水・停泊・休む・憩う・集う・向き合う・語らう・癒す・眺める・小さなイベント・オープンカフェ・アート・密度・連続・散在



広がりを感じる、アートの海。

商業施設と美術館の間にある美術の広場は、園内で最も幅が広く、シンメトリックにつくられた象徴的な場所です。広い芝生広場や水面、既存のアートファニチャーや夜光海べープなどを利用しながら、海の様々な表情を表現する、アートとしても楽しむことのできるファニチャーを設置します。

key word

海・波・しぶき・水滴・波紋・青・空を映す・様々な海の表情・木立・芝生・大水面・噴水・夜光虫・大きなイベント・大きな賑わい・自由な活動・休む・憩う・集う・アート・対称・象徴・格調・品格・広がり・開放



出迎え、見送る、船のブリッジ。

ランドマークタワー、クイーンズタワー、週末には大道芸が催される円形広場などと隣接するこの場所は、最も人通りが多く、賑わいのある公園のゲートとなる場所です。この場所を大きな船と捉え、港町の風を感じながら人々がくつろぐことのできる、公園とまち・海辺との接点をつくります。

key word

船・甲板・柵・縁・碇・白・デッキ・フラッグ・羅針盤・壁泉・ゲート・多様性・モニュメント・風・パフォーマンス・賑わい・集う・出会う・交わる・始まる・高まる・溢れる

06-02 4つの広場のデザインの考え方

b 各街区のデザインの展開

① 眺めの広場 (45-46街区) ・ 棧橋の広場 (41-42街区)



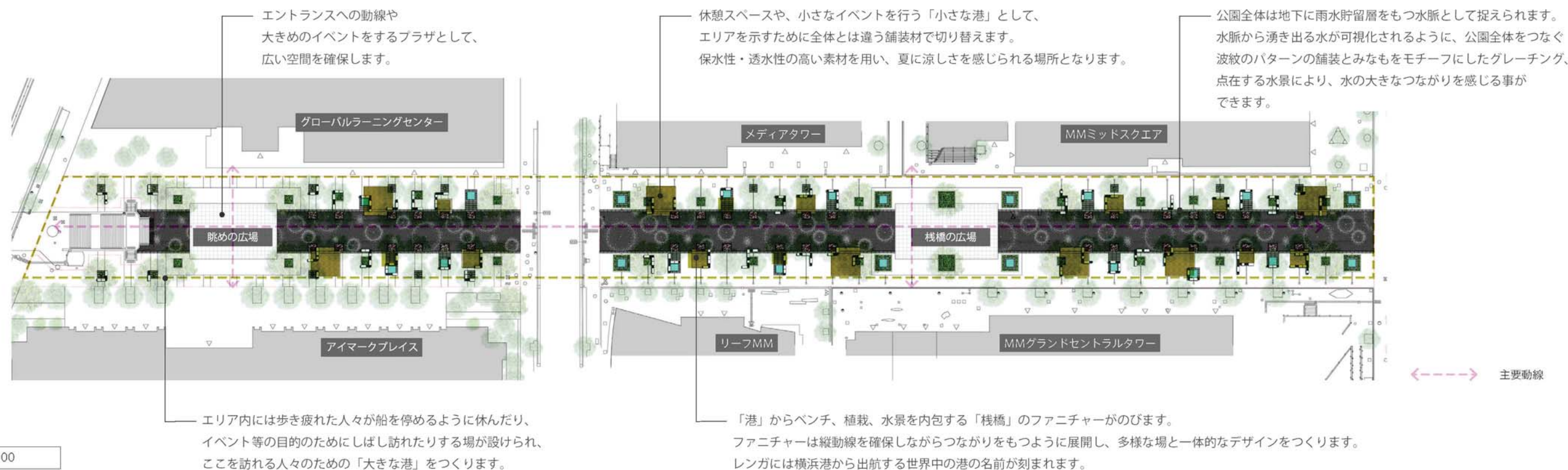
keyplan

テーマ: 大きな港、小さな港、棧橋。

眺めの広場 (45-46街区) ・ 棧橋の広場 (41-42街区) のエリア内全てを「大きな港」とし、エリア内に3m×3m~6m×6mの集いの場=「小さな港」と、ベンチ、水景、植栽などを内包したファニチャー=「棧橋」を点在させる。小さな港は保水性・透水性の高い素材を用いて、グランモール公園の全体と舗装イメージを切り替える。棧橋は、無彩色レンガや白いテラゾなど、港を感じさせるあたたかみのある素材とし、多様なアクティビティと一体的なデザインを提供する。

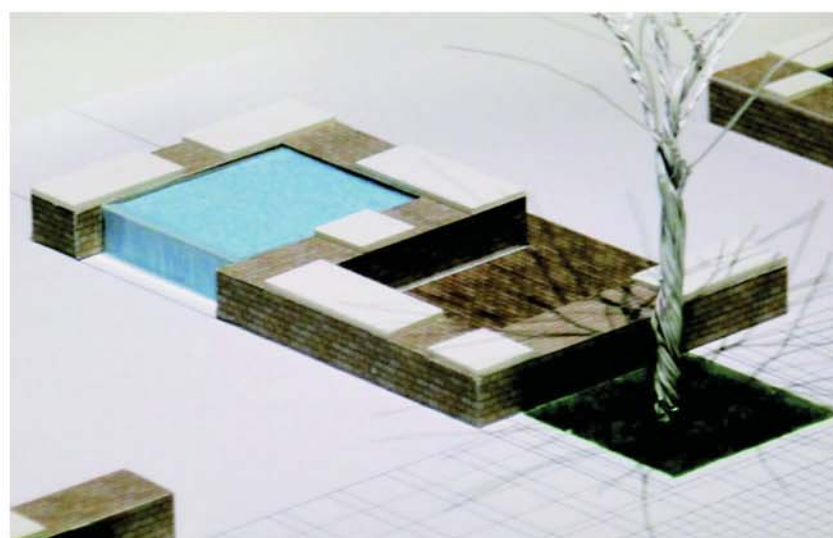


※眺めの広場 (45-46街区前) : ずずかけ橋からの高低差を活かして、ヨーヨー広場まで眺められる広場となることから「眺めの広場」とする。
 ※棧橋の広場 (41-42街区前) : 多様なアクティビティを生むファニチャー=「棧橋」が点在する港エリアの中心となることから「棧橋の広場」とする。

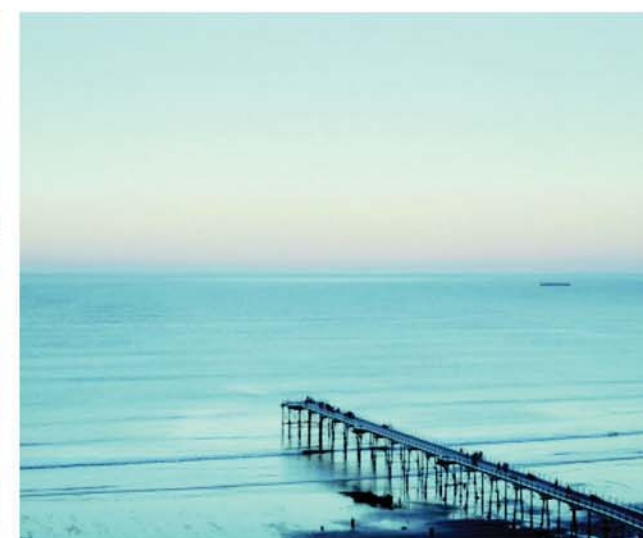


配置図 s=1/1000

模型写真



イメージ



06-03 4つの広場のデザインの考え方

b 各街区のデザインの展開

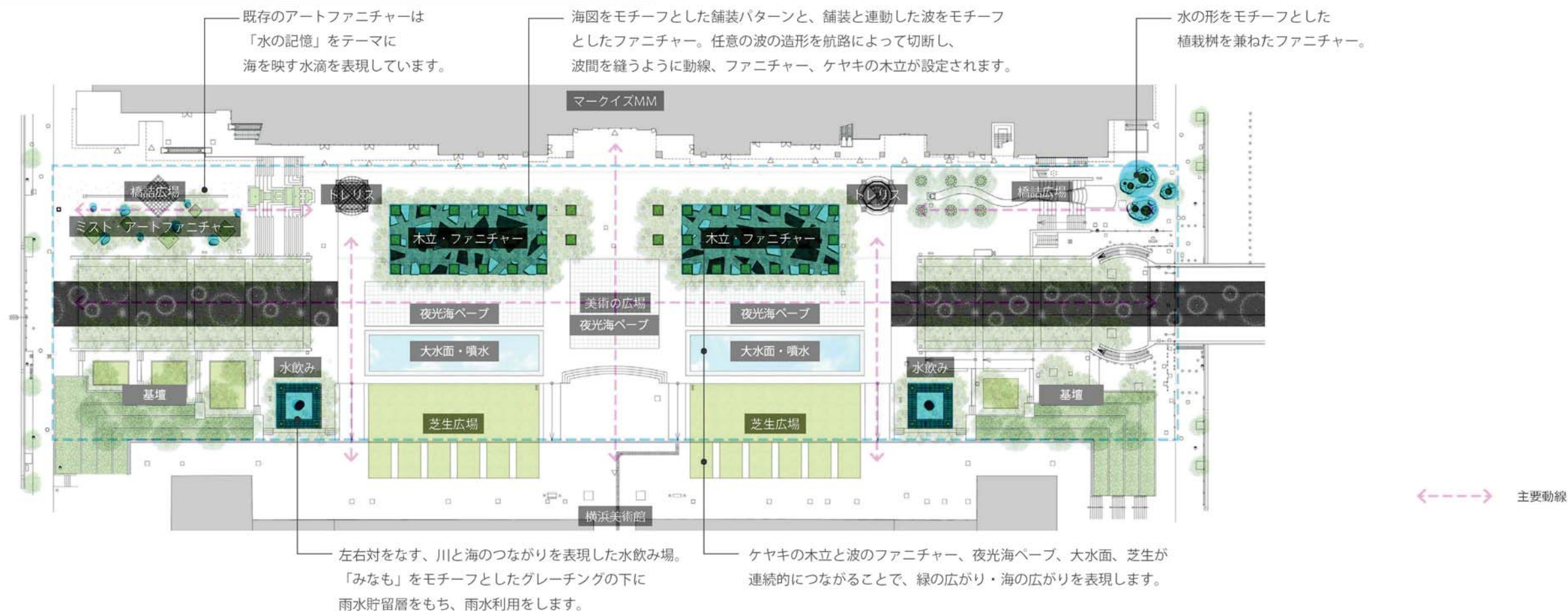
② 美術の広場・橋詰広場



keyplan

テーマ：ゆらめき、きらめき、様々な海の表情。

園内で最も広がりのある美術の広場を、港と船をつなぐ海と考え、大小の波と海図、水しぶき、空を映す静かな波打ち際、波紋など、海の様々な表情を表現する、アートとしても楽しむことのできるファニチャーを設置する。
また、ケヤキの樹冠が生むみどりの波やみどりの芝生の広がり、夜光海ペープなども海を表現している。

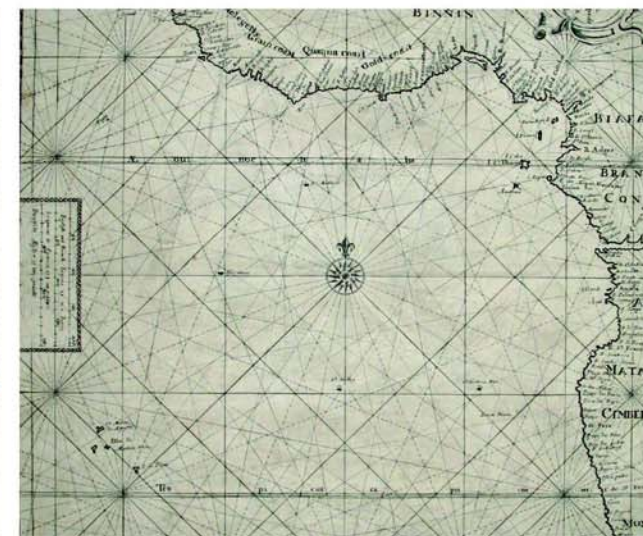


配置図 s=1/1000

模型写真



イメージ



06-04 4つの広場のデザインの考え方

b 各街区のデザインの展開

③ ヨーヨー広場・円形広場・クロスパティオ

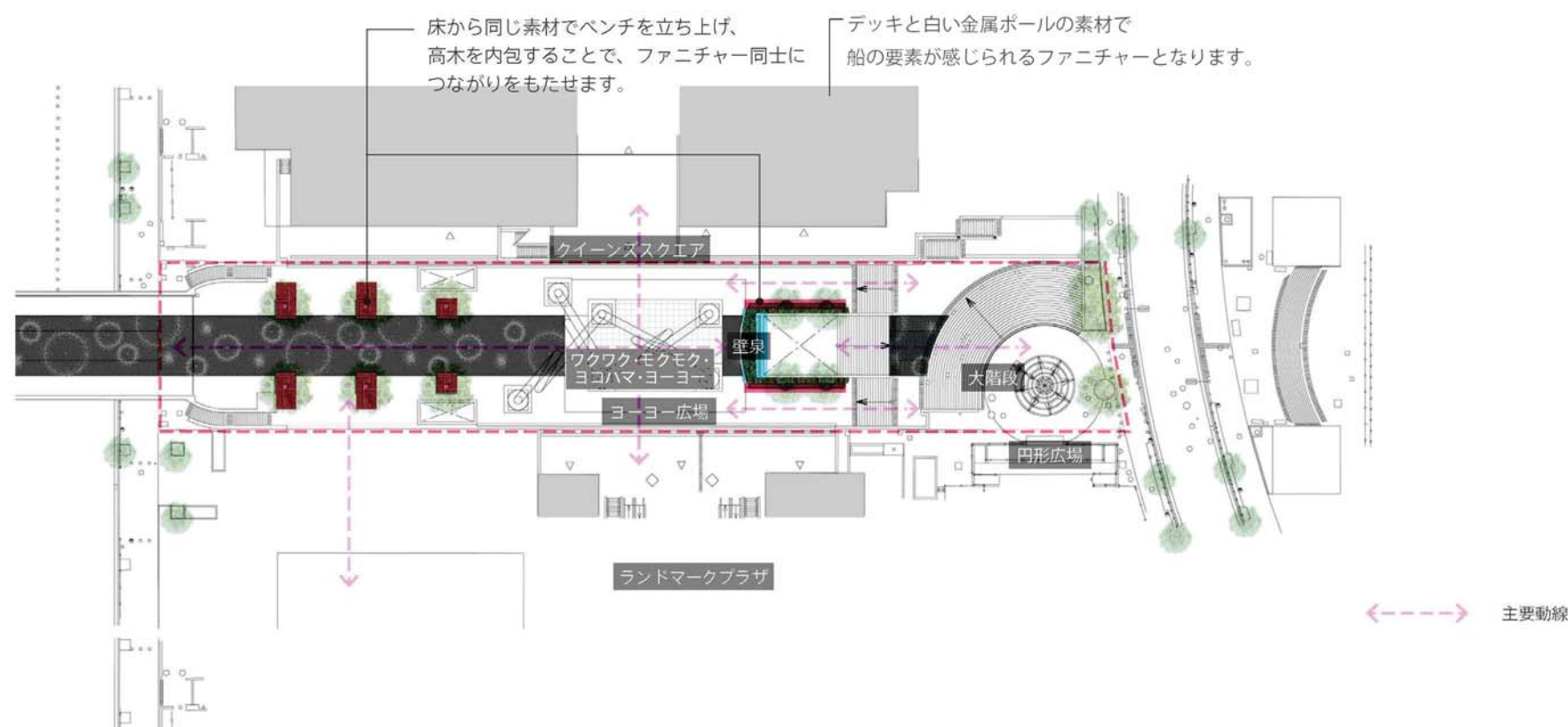


keyplan

テーマ：通りを船へと変える。

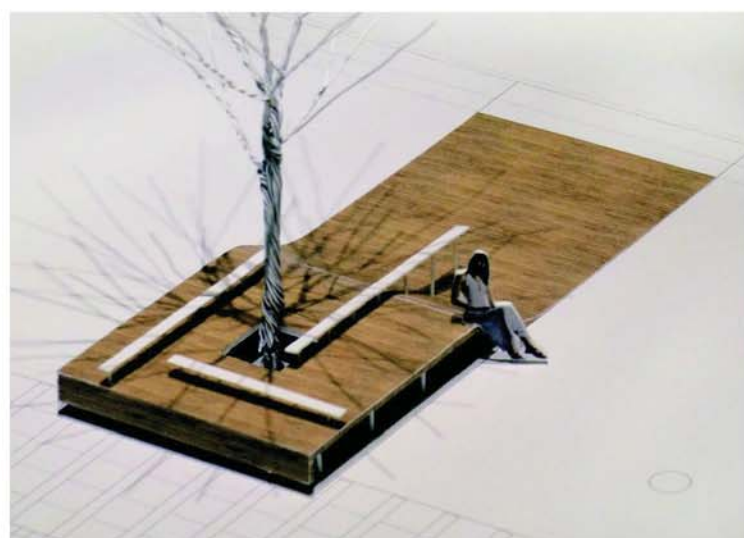
グランモール橋からヨーヨー広場、円形広場の大階段までを一艘の船と考える。船の縁や甲板に使われているようなデッキや白い金属ポールといった素材など、船の要素をファニチャーへと転換する。

円形広場の羅針盤、モニュメント、海からの潮風など、船を想わせる素材も活かす。



配置図 s=1/1000

模型写真



イメージ



07-01 再整備イメージスケッチ



眺めの広場 (45-46街区)



栈橋の広場 (41-42街区)



美術の広場



ヨーヨー広場

08-01 再整備スケジュール

